

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2016年度 共同研究成果報告書〔研究資源活用型〕

2018年 1月 31日 提出

1. 研究課題名	
18世紀の上方・江戸における出版と都市文化の関連性 (英文表記: The Relationship Between Publication and Urban Culture on Kamigata and Edo in 18 Century)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)いしがみあき	所属機関・職名
石上阿希	国際日本文化研究センター・特任助教
3. 研究分担者 (合計: 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
鈴木桂子(すずきけいこ)	衣笠総合研究機構・教授
加茂瑞穂(かもみずほ)	衣笠総合研究機構・非常勤講師
金子貴昭(かねこたかあき)	衣笠総合研究機構・准教授
倉橋正恵(くらはしまさえ)	衣笠総合研究機構・客員協力研究員
山本真紗子(やまもとまさこ)	立命館大学文学部非常勤講師
竹村さわ子(たけむらさわこ)	ライデン大学・Ph.D student
高須奈都子(たかすなつこ)	立命館大学アート・リサーチセンター・客員協力研究員
矢野明子(やのあきこ)	大英博物館アジア部・キュレーター
ローレンス・マルソー	ニュージーランド・オークランド大学・教授
澤山健史(さわやまたけし)	臨川書店

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)

本研究では、江戸中期に京都を拠点として活躍した浮世絵師である西川祐信(1671~1750)に着目し、18世紀上方出版文化から江戸の都市文化へと続く知の連環を考察する。

祐信は、上方だけではなく、江戸の絵師にも大きな影響を与えた絵師であり、多様な出版文化の展開を担った重要な人物であるにも関わらず、これまで十分な研究がされてきたとは言い難い。本研究は、祐信という絵師を核とした知的活動の展開と上方文化の江戸流入を明らかにすることを目的とする。

研究活動の一つとして、毎月1回アート・リサーチセンターにて西川祐信の着物雛形本『正徳雛形』の研究会を開催。染織、文学、美術など様々な研究者をメンバーとして『正徳雛形』に記載された各雛形を分析し、模様の典拠となった文学、演劇との関連性を考察する。

5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

毎月1回「西川祐信雛形本研究会」を開催し、『正徳ひいな形』の翻刻・語釈を行った。2016年度は全12回開催。具体的には着物の雛形に付された文章を翻刻し、語釈を行うことで着物の色や模様を再現し、文化的背景を考察する。発表後は、翻刻内容をもとに、色や模様のインデックス化を行っている。

また、2017年2月には研究会メンバーとともに千總所蔵『正徳雛形』の調査を行った。これによって、これまで知られていた諸本では欠丁であった箇所を確認することができた。これ以降、研究会で用いている底本を千總本に変更した。